

民衆の敵 (1946)

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 83分
初公開日 1946/04/25

【解説】

八住利雄と山形雄策の脚本を監督した、今井正による戦後第一作。戦時中を舞台に、工場長と財閥との確執を描く。早坂文雄が音楽を担当。

昭和19年、肥料工場主の息子である金子茂は、父から工場を託された。工場は大東財閥の小谷理事長により、軍需工場への転換を強いられていた。大東財閥の化学部門を支配する花園は、軍の幹部や官僚などを顧客とするクラブを経営していた。金子の工場は買収され、実質的な経営は軍人にゆだねられてしまう。ある日、工場の機械が故障するが、幹部は作業の続行を命令。反発した徴用工の大塚は憲兵に傷つけられけがを負った。金子は財閥を糾弾すべく演説をしようとするが、憲兵に拘束されてしまう。

【クレジット】

監督 今井正
製作 本木荘二郎
脚本 八住利雄
山形雄策
撮影 鈴木博
美術 松山崇
音楽 早坂文雄
出演 藤田進
河野秋武
花柳小菊
江川宇礼雄
志村喬
菅井一郎
鳥羽陽之助
清水将夫